

サステナビリティビジョン2050
Life with Green Technology

～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～



Contents

経営の概況	1
セグメント別の概況	3
商品トピックス	7
人財を未来へつなぐ	9
サステナビリティの取り組み	11
連結財務諸表	13
会社概要／株式情報	14

第80期
中間報告書

株主の皆様へ

2024年6月1日 ▶ 2024年11月30日

 三協立山株式会社

証券コード 5932

株主の皆様へ



代表取締役社長 平能 正三

当第2四半期(中間期)の経営環境と営業概況

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く外部環境として、国内経済においては、企業収益の改善などを背景とした設備投資の緩やかな増加や雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しが見られましたが、建設市場では資材価格および労務費の上昇による建設費の高騰や人手不足により需要が下押しされ、総じて厳しい事業環境となりました。一方、2023年度より住宅リフォーム需要の押し上げになっている政府の大型支援制度「住宅省エネキャン

ペーン」が2025年度も実施されるため、今後も需要の喚起が期待されます。

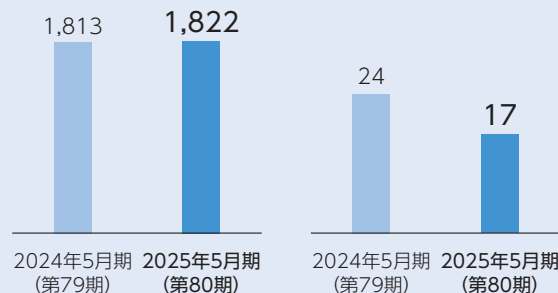
海外においては、欧州経済は回復基調を維持していますが、ドイツ経済は停滞が続きEV市場の低迷が続いております。タイ経済は自動車市場が低迷したものの、経済政策や輸出の拡大による成長の加速が見られました。

このような環境のもと、当中間連結会計期間における連結業績は、売上高1,822億56百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益17億80百万円（前年同期比28.2%減）、経常利益15億33百万円（前年同期比44.2%減）、親会社株主に帰属する中間純利益53百万円（前年同期比95.9%減）となりました。

当第2四半期(中間期)

■売上高(億円)

■営業利益(億円)



今後の見通し

国内市場は、建設費高騰や人手不足などによる住宅市場の冷え込みとアルミ地金価格の高止まりや諸資材価格の高騰が継続していることから、建材事業の利益を押し上げる見通しです。また、海外市場は、ドイツの景気停滞が長期化していることから、国際事業の利益が計画を下回って推移している状況です。上期実績と今後の見通しを踏まえて、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回（2024年7月11日）発表予想を下回るものと見込まれ、業績予想を売上高3,570億円、営業利益30億円、経常利益20億円、親会社株主に帰属する当期純利益2億円の修正いたしました。

配当予想につきましては、2024年7月11日公表の年間配当額25円（中間配当12.5円、期末配当12.5円）から変更はございません。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

行動指針

私たちは

お客様
満足

① 常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。

価値
創造

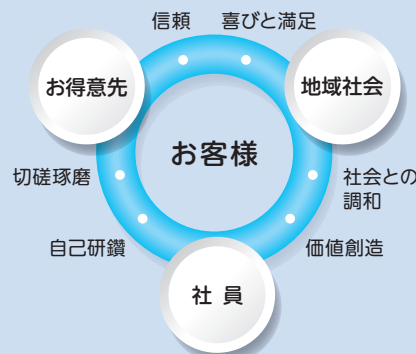
② 技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。

社会との
調和

③ 環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。

自己
研鑽

④ 自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。

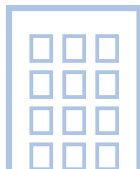


CSポリシー

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

セグメント別の概況

建材事業



多様なニーズに最新技術でお応えするビル建材と「省エネ・バリアフリー・高耐久」を考慮した住宅建材、そして最新のデザインと高い品質を追求したエクステリア建材の提供を通じて豊かな暮らしの実現に貢献いたします。

三協アルミ

売上高構成比
50.4%

建材事業においては、「住宅省エネ2024キャンペーン」によるリフォーム需要の獲得や重点商品の拡販に努めました。依然として新設住宅着工戸数の前年割れが続いており、売上高916億68百万円(前年同期比1.6%減)となりました。利益については、アルミ地金価格の上昇や資材価格の高騰などがあったものの、収益改善施策により、セグメント利益7億65百万円(前年同期比11.2%増)となりました。

ビル建材

JR東海グループと三協立山が
『東海道新幹線再生アルミ』を
活用した建材を共同開発

低炭素アルミ建材

ReOALumi T

For Circular Economy with SankyoAlumi
東海道新幹線再生アルミ仕様



三井不動産
レジデンシャルの
新築物件に初採用

▶P.12参照

(仮称)
文京区向丘1丁目計画
2025年9月完成予定

出典：三井不動産レジデンシャル株式会社

住宅建材

「住宅省エネキャンペーン」
2025年度も継続決定

後付樹脂内窓「プラメイクEII」、「プラメイク」
やリフォーム商品「NOVARIS（ノバリス）」
シリーズのさらなる拡販を目指す



エクステリア建材

大好評のカーポート「FII」
両側支持タイプに木調屋根と
ライン照明が追加



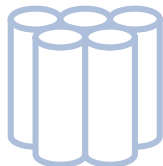
Day



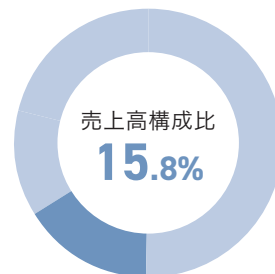
Night

マテリアル事業

三協マテリアル



素材の無限の可能性を追求し
アルミニウム・マグネシウム材の提供を通じて、
持続可能な社会の実現に貢献いたします。



マテリアル事業においては、輸送分野の自動車減産影響や建材分野での市場低迷があったものの、一般機械分野の需要回復やアルミ地金市況に連動した売上の増加により、売上高288億4百万円（前年同期比3.9%増）、セグメント利益15億64百万円（前年同期比3.4%増）となりました。

三協マテリアル
Material Business

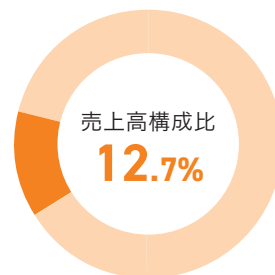
素材をカタチにする
アルミニウム・マグネシウムの可能性を切り開く

商業施設事業

タテヤマアドバンス



ショッピングセンター等の商業施設や、店舗用の陳列機器類、看板・サイン等の屋外広告物の設計・製作・施工およびメンテナンスを提供しています。



商業施設事業においては、小売業界における業態の枠を超えた競争の激化やインバウンド需要増加を背景に、新規出店や店舗改装の積極的な投資が行われました。その需要を取り込み、上半期としては過去最高の売上高230億93百万円（前年同期比4.0%増）となりました。利益については、物流コストの増加があったものの、売上高の増加や価格改定を含めた収益改善施策により、セグメント利益10億99百万円（前年同期比7.7%増）となりました。



汎用什器「タテヤマゴンドラ」



外照式サイン「アドビューシリーズ」

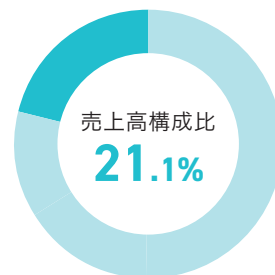


新型調剤什器「MEDシリーズ」

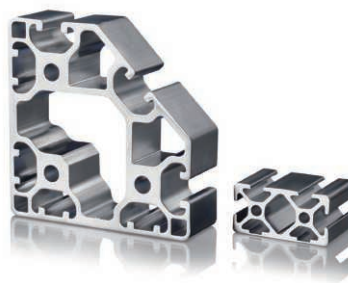
国際事業



欧州・中国・タイにある海外拠点において、
アルミニウムの鋳造・押出・加工を行い、
高付加価値製品を提供しています。



国際事業においては、欧州子会社ではEV販売台数減少の影響があったものの卸売向けの販売量が増加、タイ子会社では電子機器分野などの伸長とアルミ地金市況に連動した売上の増加により、売上高385億40百万円（前年同期比1.0%増）となりました。利益については、欧州子会社での販売構成の変化などにより、セグメント損失15億64百万円（前年同期はセグメント損失6億44百万円）となりました。



「エネジアース」が 2024年度 グッドデザイン賞を受賞



三協アルミ社のカーポート型太陽光パネル架台「エネジアース」が、
「2024年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)」を受賞しました。



GOOD DESIGN
AWARD 2024

カーポート型太陽光パネル架台「エネジアース」

「エネジアース」は、これまで培ったカーポートの技術力を生かして開発した高品質・高強度なアルミ構造のカーポート型太陽光パネル架台です。両面タイプの太陽光パネルを屋根材として組み込める一体型構造のスリムな屋根デザインを実現し、効率の良い発電とカーポート本来の利便性を両立しました。

●グッドデザイン賞 評価ポイント●

カーポート型太陽光パネル架台「エネジアース」は、三協アルミの技術が結集した製品。アルミ製でメンテナンスフリー、太陽光パネルを屋根材として使用し無駄を省く設計が評価された。さらに、災害時にはカーポートが災害拠点となり、電源の確保が可能である。都市部においても、太陽光発電パネルの下部をカーポートとして活用することで、限られた土地を有効に活用できる点が非常に優れている。この製品は、エネルギー効率と防災機能を両立した画期的なソリューションである。



高岡市上下水道局にカーポート型太陽光パネル架台が採用 ～地域の脱炭素化と災害対策に貢献～

カーポート型太陽光パネル架台「エネジアース」が、高岡市の事業者支援事業「高岡市チャレンジ新商品認定事業」の脱炭素枠の第1号に認定され、同支援事業を活用した初物件として、高岡市上下水道局に採用されました。

今回の物件では、「エネジアース」に電気自動車(EV)用充電設備を設置しており、高岡市が取り組むEVの普及促進と、環境に優しく災害に強いまちづくりに貢献しています。



カーポート型太陽光パネル架台 「エネジアース」

開発秘話

2024年度グッドデザイン賞を受賞した
カーポート型太陽光パネル架台
「エネジアース」の開発・営業担当者に、
開発・商品化までに乗り越えた課題や
今後の展望についてインタビューしました。



三協アルミ社
エクステリア事業部
パブリックエクステリア部
公共エクステリア課

副主事
大塚 真衣



三協アルミ社
開発統括部
商品開発一部
エクステリア商品開発二課

主任
原 基聡



▲エネジアースメンバー

Q 開発のきっかけは？

2023年3月に竣工した「伊根町再生エネ活用型EV充電設備」でソーラーカーポートの導入条件として「アルミ製」と「耐積雪150cm仕様」が必須項目でした。

そこで、「カーポートの三協」と言われる当社にお声がけをいただき、条件を満たすどこにもなかったカーポート型太陽光パネル架台が誕生。「Energy from the earth (地球からのエネルギー)」から、「エネジアース」と名付けました。

Q 商品化で苦労したことは何でしたか？

新しい分野の開拓ということもあり、電力関連など1から勉強しなければならないことが多くありました。販促物の制作についても、これまでの商品とは提案先やPRすることが大きく異なるため、どういう内容にすべきか、何をアピールするのが効果的か非常に悩まされました。

Q エネジアースへの思いをお聞かせください！

「エネジアース」の販売により、当社のソーラーカーポート分野はやっとスタートラインに立ったところです。今後もリファインや強化をくり返し、そう遠くない未来に当社の新たな主力商品となってくれると思っています。

カーボンニュートラルの実現の一翼を担い、サステナブルで豊かな暮らしに貢献する商品として、広く羽ばたかせていきたいと思っています。

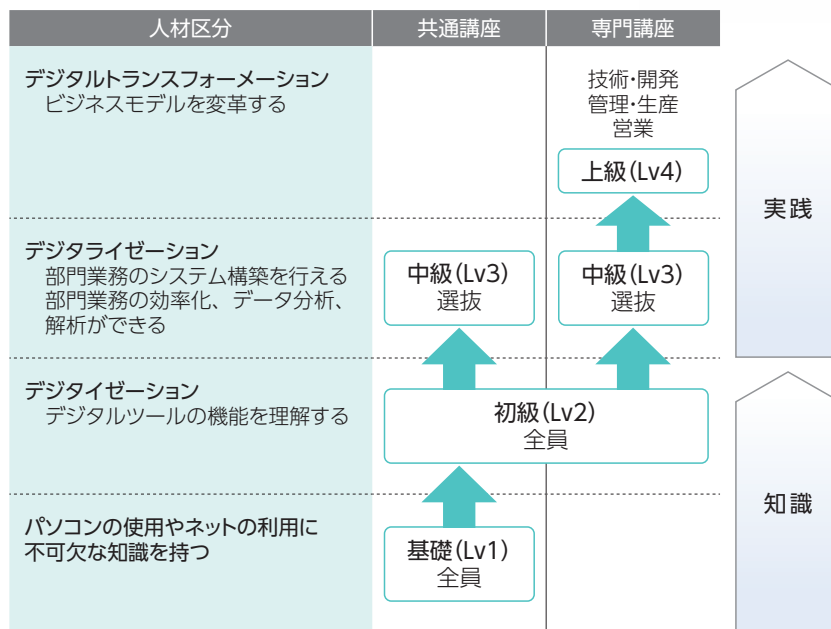
DX推進に向けた人材戦略

今中期経営計画においてDX戦略として「デジタル化推進による競争優位性の向上・業務の効率化」を掲げ、DXを支える基盤整備を進めています。その一つがデジタル人材育成です。基礎から上級レベルまで階層ごとの研修を通してビジネスモデルを変革できる人材を育成し、持続的成長可能な魅力ある会社の構築を目指します。



中級レベル講座の様子

● デジタル人材 教育体系



人材投資がお客様への 価値提供につながる 経営を目指して



タテヤマアドバンス社
営業統括室
営業企画部
営業企画課
副主任
牧野 文

主に操作マニュアルの作成、および業務担当者への説明を担当しています。操作マニュアルの作成では、業務担当者がより理解しやすいよう、様々な業務パターンを想定しながら作成することを心掛けています。

プロジェクトへは途中から加わったため、最初は打ち合わせの内容を理解することも大変でしたが、プロジェクトメンバーにサポートしていただきながら徐々に発言できるようになり、前進できたと思っています。そして、新たな業務を担当することで考え方が変化し、視野を広げることができたと実感しています。

今後は、新システムを足掛かりとして、様々なシステムの構築に関わることで業務効率化、さらには顧客満足度の向上につなげていければと思っています。

デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進の一環として、タテヤマアドバンス社の特定業態向け新店舗管理システム(以下、新システム)の構築を行いました。システム開発にはアジャイル開発手法を採用し、ローコード開発ツールの導入にも取り組みました。プロジェクト推進においては、女性社員が積極的にメンバーとして参画し、若手を中心とした開発体制を構築し、未来を見据えた人材育成にも力を入れています。



社内への企画概要の説明やヒアリングから始まり、仕様検討、開発チームへの要件伝達、導入準備などプロジェクト全体の企画・推進・管理を担当しています。システム開発の知識がない中で進めていくことは苦労が多く、開発チームとの意見の相違などもあり、白紙の状態から進めていくことの難しさを実感しました。しかし、お互いにコミュニケーションを重ねることで信頼関係が生まれ、大きな目標を達成することができました。今回、社内では他部署の方々とつながりを持てたこと、そしてプロジェクトの推進役を経験できたことは自分にとって仕事の幅が広がったと感じています。今後は、今回のプロジェクトで学んだチャレンジすることの大切さや人を信頼することの重要性を後輩に引き継ぎながら、新しい業務に積極的にチャレンジできる職場環境を作っていきたいと考えています。



プロジェクトマネージャーとして新システム導入を成功に導くための計画の立案、進捗管理、また品質やリスクの管理などを担当しました。今回、ローコード開発やアジャイル開発といった新しい手法を取り入れたため、当初は操作方法の習得や、予期しないトラブルの解決に苦労しました。しかし、日々の打ち合わせや定期的なフィードバックを通してチームの透明性を向上できたこと、またユーザーの要望に柔軟に対応できる能力を身につけたことで、効率的にプロジェクトを進行するスキルを得ることができた実感しています。

今後は、常に最新技術にアンテナを張り、日々努力を重ね自己成長するとともに、DX戦略を通して、会社全体の業務効率化や競争力向上に貢献したいと考えています。



今回のプロジェクトでは、主に画面の開発を担当しています。本格的なシステム開発はほぼ初めての経験で最初はわからないことも多く大変でしたが、ユーザーの業務内容を理解し、プロジェクトメンバーとコミュニケーションを重ねることでノウハウを蓄積し、ローコード開発のスキルを身につけることができたと感じています。また、アジャイル開発ならではの定期的な振り返りにより自分の成長を感じやすく、そして、ユーザーの要望に柔軟かつ迅速に対応するための課題解決力を高めることができたことも良かったです。今後は、さらに新しい技術に積極的に触れ社内での活用を検討し、会社の課題に対してスピード感を持って対応していきたいと考えています。

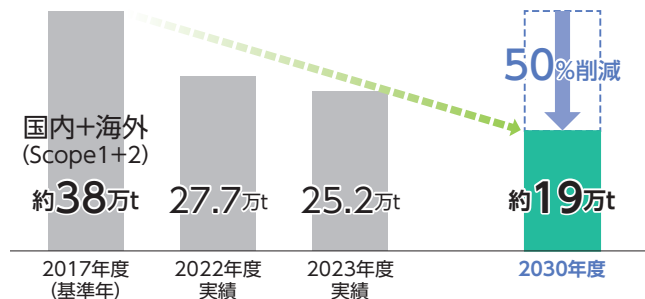
脱炭素に向けた取り組み

三協立山グループは、2021年に策定したサステナビリティビジョン2050『Life with Green Technology ～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～」を掲げ、持続可能な社会への貢献を通じて企業価値を高めていく取り組みを進めています。その中で、2030年度をゴールとするマテリアリティ(重要課題)の一つに「気候変動への対応」を掲げ、脱炭素社会の実現に向けて地球温暖化対策への継続的な活動を推進しています。

事業活動から直接・間接的に排出される温室効果ガス

Scope 1**Scope 2**

2030年度までに2017年度比で50%削減を目標としています。施策としては、事業活動における省エネ施策を積んだ上で、電力のCO₂フリー化や太陽光発電の導入などを進めています。

2030年度目標**温室効果ガス
排出量
(Scope1+2)****50%削減**

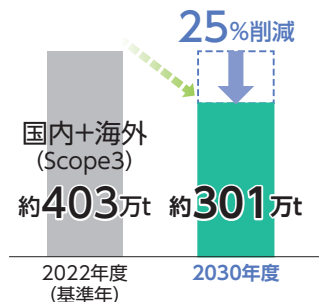
事業活動の上流・下流のプロセスで排出される温室効果ガス

Scope 3

事業活動の上流・下流のプロセスで排出される「Scope3」について、現状把握と目標設定を行いました。

Scope3は、グループ全体の温室効果ガス排出量の約94%を占めています。このScope3について、2030年度までに2022年度比で25%削減を目指します。

Scope3においては、カテゴリー1*のアルミ原材料に起因する排出量が全体の約90%を占めています。アルミニウムは新地金の製造に多くのエネルギーを使用しますが、アルミニウムをリサイクルする場合は、新地金から製造する場合に比べ、わずかなエネルギーで再生することができ、これがScope3の削減につながります。三協立山グループでは、リサイクル材の活用をさらに強化することで、温室効果ガス削減にも寄与してまいります。

2030年度目標**温室効果ガス
排出量
(Scope3)****25%削減**

※カテゴリー1：購入した製品・サービス

資源の有効活用

JR東海グループと三協立山が『東海道新幹線再生アルミ』を活用した建材を共同開発 三井不動産レジデンシャルの新築物件に初採用

東海旅客鉄道株式会社、三協立山株式会社、ジェイアール東海商事株式会社は、東海道新幹線車両のアルミをリサイクルした建材「Re^リALumi^{アルミ} T」を共同開発しました。また、三井不動産レジデンシャル株式会社の新築物件において、「Re^リALumi^{アルミ} T」がサッシとして初採用されることが決定しました。

低炭素アルミ建材

Re^リALumi^{アルミ} T
For Circular Economy with SankyoAlumi
東海道新幹線再生アルミ仕様

Re^リALumi T50

- 東海道新幹線再生アルミを**50%**使用
- 製造時のCO₂排出量を**約4割削減**(新地金比)
- 主に**カーテンウォールやサッシ**などに使用
- 2024年11月21日**(木)より受注開始

Re^リALumi T100

- 東海道新幹線再生アルミを**100%**使用
- 製造時のCO₂排出量を**約8割削減**(新地金比)
- 主に**ルーバーやスパンドレル**などに使用
- 2025年3月**より受注開始予定

「GXリーグ」への参画

三協立山は、2024年2月に経済産業省が推奨する「GXリーグ」に参画しました。「GXリーグ」とは、2050年カーボンニュートラル実現と社会変革を見据えて、GX(グリーントランスフォーメーション)への挑戦を行い、現在および未来社会における持続的な成長実現を目指す企業が同様の取り組みを行う企業群を官・学とともに協働する場のことです。

TOPICS



「とやまの森づくりCO₂吸収・固定量認証書」の受領

「とやまの森づくりCO₂吸収・固定量認証制度」とは、富山県が令和6年度より開始した、森づくり活動等によるCO₂吸収・固定量を算定・認証する制度です。活動を通じてカーボンニュートラルの実現に貢献している企業・団体の取り組みやその価値を多くの人々に知ってもらい、さらなる活動を後押しすることを目的としています。

2024年11月7日に行われた交付式において富山県の佐藤副知事から認証書と銘板を手渡されました。

当社は、これからも地域の環境保全に貢献し、森をつくり守る活動を継続してまいります。

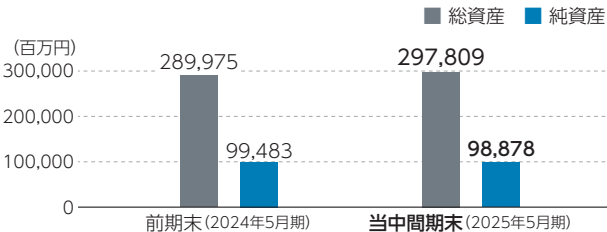


連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 2024年11月30日現在	前期末 2024年5月31日現在
資産の部		
流動資産	149,008	145,684
現金及び預金	21,855	24,653
受取手形、売掛金及び契約資産	53,591	50,303
電子記録債権	7,633	6,427
有価証券	22	12
商品及び製品	21,248	20,082
仕掛品	16,043	15,230
原材料及び貯蔵品	22,014	21,211
その他	7,204	8,332
貸倒引当金	△ 604	△ 570
固定資産	148,800	144,291
有形固定資産	109,539	105,240
無形固定資産	2,995	3,313
投資その他の資産	36,265	35,737
資産合計	297,809	289,975
負債の部		
流動負債	119,736	118,804
支払手形及び買掛金	44,957	41,023
電子記録債務	15,224	17,770
短期借入金	8,367	13,739
その他	51,186	46,270
固定負債	79,194	71,687
長期借入金	54,414	46,268
その他	24,780	25,419
負債合計	198,930	190,492
純資産の部		
株主資本	72,175	72,439
その他の包括利益累計額	23,314	23,698
非支配株主持分	3,388	3,345
純資産合計	98,878	99,483
負債純資産合計	297,809	289,975



■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 2024年6月1日～ 2024年11月30日	前中間期 2023年6月1日～ 2023年11月30日
売上高	182,256	181,372
売上原価	145,748	145,443
売上総利益	36,507	35,929
販売費及び一般管理費	34,726	33,450
営業利益	1,780	2,478
営業外収益	921	1,228
営業外費用	1,168	959
経常利益	1,533	2,747
特別利益	13	39
特別損失	275	227
税金等調整前中間純利益	1,272	2,559
法人税等	1,198	1,310
中間純利益	73	1,249
非支配株主に帰属する中間純利益又は 非支配株主に帰属する中間純損失(△)	20	△ 37
親会社株主に帰属する中間純利益	53	1,287

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 2024年6月1日～ 2024年11月30日	前中間期 2023年6月1日～ 2023年11月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,111	5,147
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,778	△ 4,036
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,695	△ 912
現金及び現金同等物に係る換算差額	284	696
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 2,687	895
現金及び現金同等物の期首残高	23,312	20,455
非連結子会社との合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	74
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,625	21,426

会社概要／株式情報 (2024年11月30日現在)

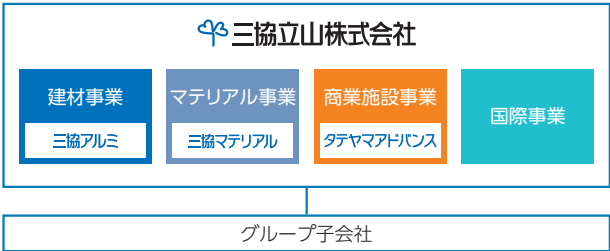
■ 会社概要

会 社 名	三協立山株式会社
所 在 地	〒933-8610 富山県高岡市早川70番地
設 立	1960年6月20日
資 本 金	150億円
従 業 員 数	連結:10,116名／単体:4,724名
U R L	https://www.st-grp.co.jp/

■ 役員

代表取締役社長	社長執行役員	平 能 正 三
取締役	常務執行役員	吉 田 経 晃
取締役	常務執行役員	久保田 健 介
取締役	常務執行役員	黒 畑 靖 之
取締役	常務執行役員	豊 岡 史 郎
取締役	常務執行役員	東 一 郎
社外取締役		篠 田 寛 子
取締役 監査等委員 (常勤)		本 川 透
社外取締役 監査等委員 (常勤)		長谷川 弘 一
社外取締役 監査等委員		荒 牧 宏 敏
社外取締役 監査等委員		戸 田 和 範
社外取締役 監査等委員		吉 川 美 保

■ 事業セグメント



■ 株式の状況

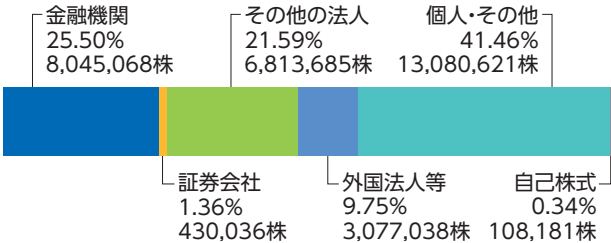
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	31,554,629株
株主数	20,106名

■ 大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数	出資比率
	千株	%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,145	10.00
住友化学株式会社	2,235	7.11
三協立山社員持株会	1,454	4.62
三協立山持株会	1,375	4.37
ST持株会	1,317	4.19
三井住友信託銀行株式会社	971	3.09
株式会社北陸銀行	888	2.83
住友不動産株式会社	809	2.58
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	663	2.11
THE NOMURA TRUST AND BANKING CO., LTD. AS THE TRUSTEE OF REPURCHASE AGREEMENT MOTHER FUND	620	1.97

(注) 出資比率は自己株式108,181株を除いて算出しております。

■ 所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日

定時株主総会 8月

基準日 定時株主総会 5月31日

期末配当 5月31日

中間配当 11月30日

上場証券取引所 東京

公告方法 電子公告 (<https://www.st-grp.co.jp/>)

※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈郵便物送付先〉 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈電話照会先〉 ☎ 0120-782-031

〈インターネット〉 <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

〈ホームページURL〉

株式に関する住所変更等のお届出および ご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

単元未満株式の買取請求および買増請求の取扱い

単元(100株)未満の株式の買取請求および買増請求は、その単元未満株式が記録されている口座の口座管理機関までお問合せください。

ホームページのご案内



詳細な財務情報やニュースリリース等は、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.st-grp.co.jp/>

三協立山



今後のIRスケジュール

2025年
4月上旬

2025年5月期
第3四半期決算発表

2025年
7月中旬

2025年5月期
決算発表

2025年
8月下旬

2025年5月期
報告書発送

 三協立山株式会社

〒933-8610 富山県高岡市早川70番地
TEL 0766-20-2101

UD
FONT



この報告書は植物油
インキを使用して
印刷しています。